

中病だより

島根県立中央病院広報誌 2011.6

〒693-8555 島根県出雲市姫原四丁目1番地1

TEL 0853-22-5111 FAX 0853-21-2975

Mail spch@spch.izumo.shimane.jp

URL <http://www.spch.izumo.shimane.jp/>



題字 岩成 治 / 写真 西村憲幸

話題

「認定看護師が開催する

在宅スタッフ向け看護セミナー開催」

看護局 主任看護師

皮膚・排泄ケア認定看護師 景山友子

… P 1

「医療をサポートする

情報通信の今と将来」

情報システム管理室 室長補佐 石飛厚志

… P 3

● 当院の取組み … P 4

「薬学6年制の長期実務実習が始まりました！」

薬剤局 薬剤科 薬剤主任 安食健一

「安全な医療環境を目指して」【上】

医療安全推進室 室長補佐 伊藤日登美

● 病院のお仕事 … P 6

「臨床工学科・MEセンターの紹介」

医療技術局 臨床工学科 科長 片寄恭次

● お知らせ

自己血圧測定、ドクターヘリ、看護職員募集 等

● 編集後記

認定看護師が開催する 在宅スタッフ向け 看護セミナーの開催

平成22年度、島根県立中央病院では私を含め3人の新しい認定看護師が誕生しました。現在、11分野12名の認定看護師が在籍し、外来や病棟、院内全体の患者さんを対象として各々の活動を行っています。現在、認定看護師がリソースナーズとして各分野での専門性を発揮し、医療の質を高めるために「認定看護師会」を設置し活動を行っています。その会の活動のひとつとして平成22年12月から「認定看護師が開催する在宅スタッフ向け看護セミナー」を開始しました。

当院では11分野で12名の認定看護師が在籍しています。

今回、「皮膚・排泄ケア」認定看護師の景山友子主任看護師に認定看護師の業務について聞きました。

近年、患者さんの入院期間の短縮などに伴い、診療所での治療を受けながら在宅で訪問看護を利用し療養生活を送られている方が増加しています。退院後、在宅でも継続した看護を受けるためには在宅看護に関わる看護師が必要です。そのニーズは高く、今後の活躍がより重要となっており、多方面からも期待されています。セミナーは出雲圏内の保健師、訪問看護師、診療所の看護師を対象に認定看護師の専門領域の看護ケアについて、知識・技術の情報交換・情報提供を目的としています。

認定看護師がそれぞれの専門領域を活かし、昨年12月から月1回開催し、今年3月までに4回実施しました。私は皮膚・排泄ケア認定看護師であり、2月に「高齢者のオムツ内環境とスキンケア」について行いました。院内外から約40名の方が参加してくださり、職種も看護師だけではなくケアマネージャーや介護士など多職種にわたっていました。勤務先も病院、診療所、訪問看護ステーション、老健施設、訪問介護と幅広く、遠い所では浜田の方からの参加もあり、在宅看護に関わる方々がこのテーマに関心が高いことが分かりました。質疑応答では多くの質問や意見があり、院内で活動を行っている私にとってもコスト面やスキンケアに有効な製品が入手しにくいなどの在宅看護の現状を知ることができました。終了後のアンケートでは「今後のケアに活かせる」「参考になった」という意見を多くいただき本当に嬉しく思っています。参加された方以上に開催した私達が教えていただくことも多く、このセミナーは参加者、開催者両者が共に学ぶことができるよい機会になっていると思います。

4月からは「がん看護」シリーズを開始しています。がんの早期発見や新しい治療法により、がんと共に在宅で療養されている方も増えてきています。「がん看護」は今後、在宅看護で必要とされる知識・技術であり、病院と在宅の連携は今以上に必要不可欠なものとなってくると思います。当院は、地域がん診療拠点病院に指定されており、がん治療やがん看護に力を入れています。「がん看護」のセミナーでは、5分野の認定看護師がシリーズで開催します。セミナーは受講料無料で、事前に申し込みをお願いしていますが、当日参加も可能です。多くの方の参加をお待ちしています。

～ おことわり ～

このセミナーは医療関係者を対象としています。



～ 認定看護セミナーの開催日 ～

開催日	毎月第3木曜日
会場	島根県立中央病院（2F大研修室）
開催時間	18時～20時
申込み先	島根県立中央病院 看護局
	電話 0853-22-5111（代）

※ 都合により開催日、開催時間等の変更がありますので、事前にご確認ください。

当院では「皮膚・排泄ケア」「がん化学療法看護」「乳がん看護」「がん性疼痛看護」「緩和ケア」「手術看護」「新生児集中ケア」「集中ケア」「感染管理」「不妊症看護」「摂食・嚥下障害看護」の11分野で12名の認定看護師が専門性を発揮して業務を行っております。

◆◆◆ トピックス ◆◆◆

5月11日に「看護の日」のイベントが行われ、島根県出雲警察署の流水咲子巡査長が「一日看護局長」に委嘱されました。

委嘱状交付式で流水さんは、自身が入院したとき、看護師の優しい一声に安心感を感じたと挨拶され、職員と一緒に日本看護協会の歌「光求めて」を歌いました。

交付式後は外来ホール、リハビリフロア、母性・小児病棟で入院、通院されている患者さんに励ましの言葉をかけられました。



～医療をサポートする情報通信の今と将来～

情報システム管理室

室長補佐 石飛厚志



島根県立中央病院が日本で最初に電子カルテを導入したことをご存じでしょうか？平成11年に当病院が移転新築したと同時に「統合情報システム」は稼働を開始しました。統合情報システムは、電子カルテを中心として、検査システムや会計システムなど院内のほぼ全てのシステムが連携し、「統合」して運用するシステムです。私たちはこれをIIMS(Integrated Intelligent Management System)と呼んでいます。

最近の医療は様々な専門分野のスタッフが協力して高い水準の医療を実現していますが、各スタッフ間の情報の伝達・共有がスムーズにできることが前提となっています。そのため、IIMSがトラブルを起こすと情報の伝達・共有が上手くいかず病院全体に重大な影響を及ぼしてしまいます。私たち情報システム管理室の基本的な仕事はIIMSを常に良好な状態に保つことです。病院が最大限の機能を発揮できるよう、24時間対応の体制を取っています。

また、IIMSは大量のデータを扱っています。そのデータ量はこの紙面の10億頁分に相当します。これら膨大な情報の中には、当然患者さんの重要な個人情報も含むため、閲覧権限の厳重な管理や持ち出しの規制などにより、情報を保護するのも私たちの仕事です。

IIMSは成長を続けるシステムです。「医療

の質の向上」「患者サービスの向上」「病院管理運営の効率化」を目指して、常にその機能の改善に取り組んでいます。

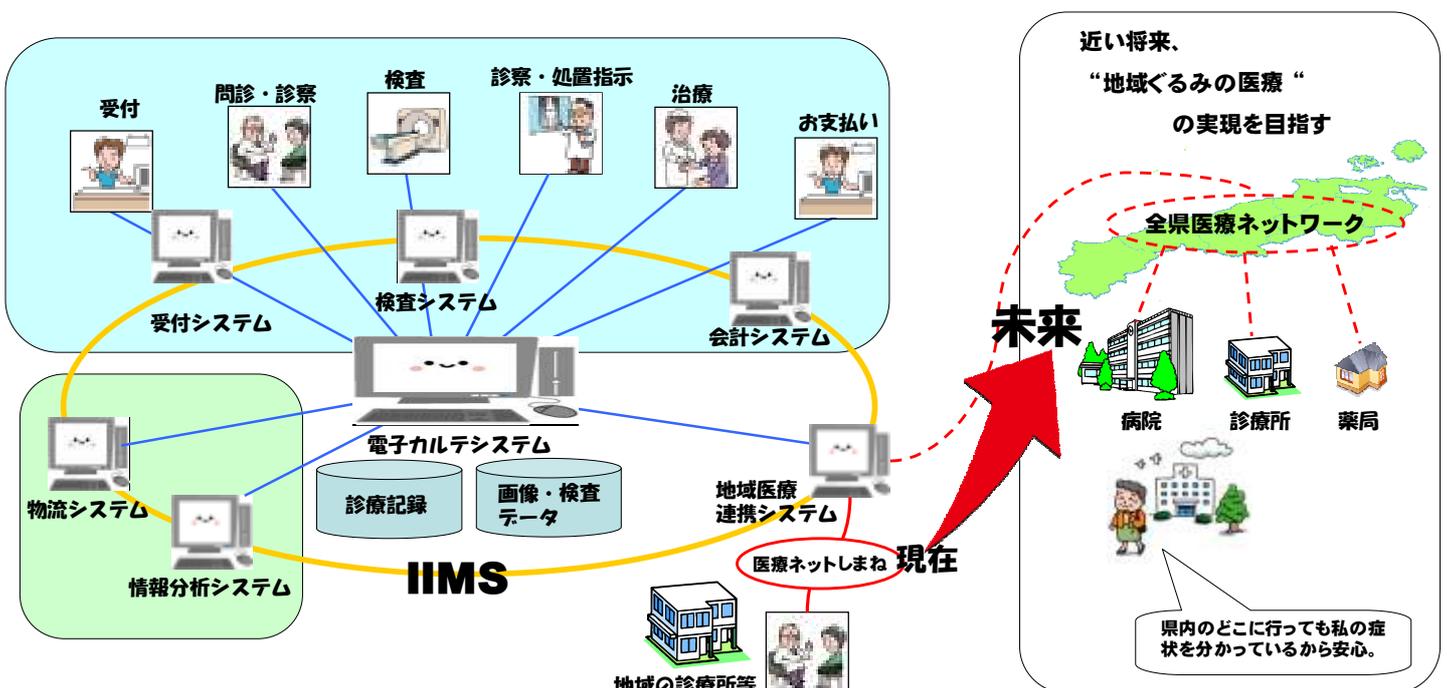
現在のIIMSは2代目ですが、年末には3代目へのバージョンアップを予定しています。

患者さんを取り間違えないための工夫や、強固な情報漏洩防止対策、使い易さの追求など、3代目には多くの新機能を追加します。その実現に向け、病院長指示により立ち上がったプロジェクトチームでは、現在、医師や看護師等の現場のスタッフが熱い議論を重ねています。それを私たち情報システム管理室の職員、エンジニアがサポートして現実のシステムに仕上げていく訳ですが、これからが正念場というところです。

システムやネットワークの切り替わり時には、一時的にシステム全て停止しなければならないため、来院の患者さんには不便をおかけ致しますが、ご理解賜りますようお願い致します。

～将来の夢～ 私たちは情報通信技術を使って、これからの医療を変えていく様々な取り組みにも挑戦しています。例えば、同意を頂いた患者さんであれば、紹介先の診療所等で当院の診療情報を見て治療内容等を確認できるようになっています。また、昨年行った社会保障カード実証事業により、自宅のパソコンで自分の検査情報等をご覧になれる環境整備に実験的に取り組みました。

初めて行く医療機関でも、その患者さんの薬歴やアレルギー等の重要な情報をシステムで瞬時に確認でき、万一の事故で救急搬送されても、安心して医療を受けることができるような時代を作ることが私たちの夢です。



● 当院の取組み ①

薬学6年制の長期実務実習が始まりました！

薬剤局 薬剤科 薬剤主任 安食健一



大学の薬学教育は、平成18年度より従来の4年制から6年制へ転換しました。6年制となり大きく変わったことは、臨床での高い実践能力を有する人材の育成のため、大学5年生時に病院11週間、薬局11週間の長期実務実習が義務付けられた点です。大学病院だけでなく、地域の病院、薬局においても実習が行われます。

薬剤師の仕事は、この十数年で大きく変化し、調剤や医薬品管理を主に行っていた「クスリ」中心の業務の時代から、患者さんへの薬の適正使用のため、服薬指導、薬学的ケアなどチーム医療に参画する「患者さん」中心の業務に大きく変わりました。長期実務実習の必修化は、臨床の場に適應できる質の高い薬剤師を養成することに強い期待が寄せられた結果だと思われます。

平成22年度より、薬学6年制となって初めての実務実習が始まり、当院でも2名の薬学生を9月から11週間受け入れました。当院は、総合病院であり多数の疾患の薬物療法に触れることができること、日本初の電子カルテシステムであるIIMSにより業務を行い、必要な情報が即座に確認でき利用できること、約30名の薬剤師により多岐に

わたる業務を行っていることなど、実習を行う上で好条件が揃っています。これらを活かし参加型の実習を目指しました。調剤業務をはじめ、注射薬の無菌調製や病棟での患者さんへの服薬指導、薬学的ケアなどを実際に体験し、医療チーム（感染制御チーム、緩和ケアチーム、栄養サポートチームなど）への同行やカンファレンスへの参加も行いました。2名の薬学生は積極的に実習に取り組み、実習終盤には、「当直業務もやってみたい」との思いがけない希望があり、急遽計画に盛り込むなど、当院の薬剤師の実際の業務のほとんどを体験してもらうことができました。最後にとった学生のアンケート結果でも、満足度の高い評価を得ました。一方で初年度ということもあり、反省点もいくつかありましたので、来年度に生かして、薬学生の実務教育の充実にさらに力を注いでいきたいと思っています。

今回受け入れた2名の薬学生はいずれも島根県出身者で、他県から帰省しての実習（ふるさと実習）でした。島根県の大学には薬学部はないため、ほとんどの場合が今回のようなふるさと実習となります。ふるさと実習を通して、島根県の薬剤師も大都市に負けない良質な医療を提供していることを実感してもらえよう、我々現役の薬剤師も日々レベルアップに励みたいと思っています。そして、実習を受けた薬学生が薬剤師国家試験に合格し、社会に貢献できる優秀な薬剤師となり、郷土に帰り活躍してくれればと期待しています。



最後に、患者さんやそのご家族の皆様には、実習期間中、薬学生が対応することもあると思いますが、薬剤師の監視のもと実習をさせておりますので、良質な薬剤師育成のために、温かい目でご理解とご協力をお願いします。

薬学生と薬剤科職員の集合写真

(前列左から3人目と4人目が薬学生)

● 当院の取組み ②

医療安全推進室は、患者さんの安全を最優先に考え、安全で安心な医療の提供のため、環境整備、基準やマニュアル作成、周知などの医療安全に取り組んでいる部署です。

医療安全推進室の活動としては、全職員対象の医療安全研修の企画・運営を行っています。研修では、職員の医療安全に対する意識の向上を目的としたKYT（危険予知トレーニング；危険予測をする訓練）、確実な確認の方法を身につけるため指さし呼称を、医師をはじめ研修に参加した職員全員で訓練しました。今年度は、放射線技師による「MRI検査における安全性について」のテーマで研修会を実施しました。この研修ではMRI検査の際の

医療安全推進室 室長補佐 伊藤日登美

安全な医療環境を目指して

注意事項について学び、そして、医療従事者と患者さんと双方で安全確認したり、チェックリストを活用したり、効果的な確認を実践しています。

このような、研修を通し、日常の業務を医療安全の視点で点検し、業務改善を行い、患者さんに対する安全・安心な医療の実践に効果を上げています。



自己血圧測定講習会

～ 自分で自分の血圧を測ってみませんか!? ● 対象

● 日時

- ・ 7月15日（金）13：30～16：00
- ・ 10月7日（金）13：30～16：00

● 場所

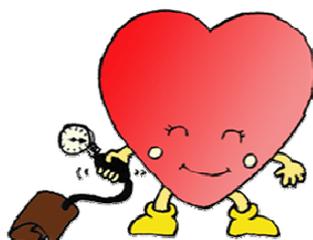
島根県立中央病院 大研修室（2階）

● 内容

- ・ 血圧について（医師による講義）
- ・ 血圧の測り方（看護師による講義）
- ・ 血圧測定（実技演習）

● 参加費

無料です



- ・ 自分の血圧が気になる方
- ・ 家族の血圧を管理したい方
- ・ 血圧の測り方を学びたい方 など

どなたでもご参加ください。

講義のみの参加もできます。

※ 血圧計をお持ちの方は、ご持参ください。

正しい測定方法をご指導いたします。

● 申込先

1階 地域医療連携室（医療連携・医療相談科）

電話 0853-22-5111（代）

※ 開催日の1週間前までにお申し込み
ください。

● 主催

看護局「自己血圧測定チーム」

～ 病院のお仕事 ～

臨床工学科・MEセンターの紹介

医療技術局 臨床工学科 科長 片寄恭次

臨床工学技士法は、昭和63年7月1日に施行された医療系では最も新しい国家資格です。



臨床工学技士は、生命維持管理装置の操作及び保守点検を業としています。法律で定める「生命維持管理装置」とは、人の呼吸、循環、又は代謝機能の一部を代替し、又は補助を目的とされる装置であり、取扱いを一步間違えれば重大な事故につながります。

当院では平成5年4月に臨床工学科が新設され、臨床工学技士4人で業務を開始しました。当初は、呼吸・循環・代謝・医療機器管理を軸に業務を開始し、今日まで医療の日進月歩に合わせて業務の拡大を図って来ました。

平成19年4月には、独自に開発した医療機器管理システム「匠」を導入し、院内の医療機器に関して各種申請窓口の一本化、購入・点検・修理・廃棄に関する情報の管理部門として、MEセンター（医療機器管理室）の運用を開始しました。

平成20年4月には、業者立会い規制が実施され、メーカーや業者に依存していた業務が臨床工学技士の業務に移行し新たな業務拡大となりました。

現在のスタッフは11名：臨床工学技士8人、事務員2人、委託業者1人で業務を行っています。

★ 夜間及び休日は待機制をとっており、緊急事態にも迅速に対応しています p(^へ^)q

● 血液浄化業務

血液透析など血液浄化療法の実施など

● 手術室業務

手術機材の準備・操作、人工心肺装置の操作など

● 循環器操作業務

心臓カテーテル検査業務、電氣的生理学検査、ペースメーカー業務などで使用する機器の操作、作動チェックなど

● 大血管内治療（ステントグラフト）

術中自己血回収装置、血管内超音波診断装置の操作

● 医療機器の保守点検、メンテナンス、修理

● 医療機器の情報管理

・医療機器管理システム「匠」を用いた医療機器の情報の一元管理

（予算、購入、借用、点検、修理、廃棄の申請ほか）



臨床工学科の明日を目指して

生命維持管理装置は、取扱いを間違えれば重大な事故につながります。これらの装置を安全に操作し安全に使用するためには、専門的な知識や技術、臨床的に広く知識と技術を必要としています。

そのために種々の学会や研修会への参加、資格認定の取得など自己啓発に励んでいます。また、メーカーのメンテナンス講習を受けることで院内での保守点検整備によるコストの削減と稼働率のアップ、安全な医療機器を提供して行きます。

最近、島根県立大学短期大学部出雲キャンパスの学生さんに医療機器についての講義、高等学校へ職業紹介等も行っています。

ドクターヘリの

運航が始まりました！！

6月13日から中央病院が基地病院となり、島根県ドクターヘリの運航がいよいよ始まりました！



Q. ドクターヘリとは？

救命救急医療を必要とする患者さんのもとへ、救命救急医療の専門医及び看護師を速やかに派遣して一刻も早い初期治療を開始し、現場等から医療機関へ搬送するまでの間、患者さんに救命医療を行うことのできる「**救急医療専用ヘリコプター**」です。

Q. ドクターヘリに期待すること

これまでより早い段階から患者さんへの初期治療を開始することが可能になり、救命率の向上、後遺症の軽減などが期待されます。

また、医師不足による救命救急医療体制など、病院機能の低下を補うための有効な手段と考えています。



ドクターヘリに搭乗する医師・看護師の胸にはオリジナルマーク入りのワッペンを身につけています。

救命救急科の新納先生のデザインです。

Q. ドクターヘリはどんな時に出動するの？

119番通報を受けた消防機関、又は救急現場の救急隊が、医師による早期治療が必要と判断した場合に中央病院の運航管理室へ出動要請が入ります。

また、各地域における救急医療機関が、そこに収容した救急患者を高次の救急医療機関に緊急搬送する必要があると判断した場合にも要請を受け出動します。

安全運航にご協力ください。

注意

ドクターヘリは、空港などの飛行場以外に現場救命救急のため学校の校庭などの場外離着陸場（約350カ所）に着陸することがあります。

ヘリコプターはプロペラが回っており、また**機体周辺は強い風が吹き大変危険です。**
決して機体に近づかないでください。

東日本大震災被災地域の医療支援

地震で被害に遭われた皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

平成23年3月11日（金）に宮城県三陸沖を震源とする地震発生を受け、当院からは*DMAT 1チーム（医師1名、看護師3名、診療放射線技師1名）がその日の夕方に被災地に向け出発し、宮城県等で急性期医療の支援を行いました。

また、3月22日（火）から5月1日（日）まで「島根県災害医療班」として宮城県七ヶ浜町の避難所

で救護所を立ち上げ、避難生活されている方々の治療、健康管理を行い、当院からは25名（医師10名、看護師11名、薬剤師2名、診療放射線技師1名、事務職1名）の職員が被災地で活動しました。

この災害医療班の活動は、当院以外に松江市立病院、雲南市立病院、出雲市立総合医療センター、島根大学医学部附属病院、六日市病院の医療班（のべ43名）と交代しながら41日間で延べ568名の診察を行いました。5月からは高知県の災害医療班に活動を引き継ぎました。

*DMAT：「中病だより」第7号参照

診療科	外来診療表【 一般（初診） 】										平成23年5月1日現在	
	月		火		水		木		金		午前	午後
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後		
総合診療科	○		○		○		○		○		○	
精神神経科	○		○		○		○		○		○	
神経内科	○		○		○		○		○		○	
呼吸器科	○					○		○				
消化器科	○		○		○		○		○			
循環器科	○		○		○		○		○		○	
リウマチ・アレルギー科	○			○	○		○		○		○	
血液腫瘍科	○				○		○		○		○	
内分泌代謝科	○		○		○	○	○		○		○	
外科	○		○		○		○		○		○	
乳腺科	○		○		○							
整形外科	○		○		○		○		○		○	
脳神経外科	○		○		○		○		○		○	
呼吸器外科					○						○	
心臓血管外科	○				○						○	
泌尿器科	○		○					○			○	
小児外科			○					○				
腎臓科	○		○					○				
形成外科		○				○					○	
皮膚科	○		○		○		○		○		○	
眼科	○		○		○		○		○		○	
耳鼻咽喉科	○		○					○			○	
歯科口腔外科	○		○		○		○		○		○	
小児科	○		○		○		○		○		○	
産婦人科	○		○		○		○		○		○	

～ 看護職員募集 ～ （看護師50名・助産師5名）

- ◆ 採用試験日 平成23年8月20日（土）～22日（月） ※22日は予備日
- ◆ 試験会場 20日：ニューウェルシティー（出雲市塩冶町）、21日以降：島根県立中央病院
- ◆ 試験内容 作文試験、面接試験 **※専門試験はありません**
- ◆ 受付期間 平成23年6月23日（木）～7月27日（水）
- ◆ 受験資格 40歳までの人で、免許取得者又は国家試験により免許取得見込者
- ◆ 勤務条件 3交代制、若しくは2交代制が可能であること
- ◆ 採用時期 原則 平成24年4月1日
- ◆ お問い合わせ先

島根県病院局県立病院課（中央病院事務局内） 担当：宮川（ミヤガワ）

電話 0853-30-6420

E-Mail kenritsubyouin@pref.shimane.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.shimane.lg.jp/hosp/>



◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆ 2年ぶりに「中病だより」の編集を担当します。みなさん、よろしくお願ひします。

いよいよ「島根県ドクターヘリ」が運航開始しました！！出動要請から数分で基地病院である島根県立中央病院を離陸し、島根県全域を40分以内で到達できます。島根県の救命救急医療に大きく貢献できるものと確信しています。

運航にあたり病院周辺、場外離着陸場周辺にお住まいの方にはエンジン音等でご迷惑をおかけしますが、島根県ドクターヘリの運航にご理解とご協力をいただきますよう、お願ひいたします。【R.H】